

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

こぶし

第 155 号

2022年1月1日発行

発行責任者：横井正人

編集：機関紙局

特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座

北海道函館市陣川町 122-172

TEL:0138-54-2859 FAX:0138-84-8207

年 2 回発行

E-mail:kobusiza@wing.ocn.ne.jp

http://kobusiza.sakura.ne.jp/

主な内容

- ・新年のごあいさつ
- ・学校公演の先生方の感想
- ・「支援募金」のお礼と現状
- ・お知らせ など

= 今号は都合により紙面縮小版です =

<ホームページにカラー版を掲載中!>

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い致します

二〇二二年 元旦

特定非営利活動法人 (NPO 法人)

民族歌舞団こぶし座社員一同

理事長 横井正人 (座員)

理事 中尾雄児 (座員)

理事 計良 徹 (座員)

監事 金城公雄

計良正子 (座員)

横井ひとみ (座員)

松岡智恵美 (座員)

村田さつき (座員)

安藤良子

板垣 清

岩島 司

岡部幸人

西東英範

志賀松 晋

志賀松智恵美

橋本かおり

馬場 雅

新年のごあいさつ

新しい年があげました。

昨年は、長引くコロナ感染拡大の影響を受け
厳しい一年となりましたが、皆さまからの「支
援募金」継続のご協力により、何とか年を越す
ことができました。賜りましたご支援に心から
お礼申し上げます。

八月の「はこだて音鑑例会」を皮切りに、学
校や保育園など、延期になっていた公演も徐々
に動き出し、十月から十二月にかけて久しぶり
に忙しい公演活動の日々が続きました。

児童生徒の弾ける笑顔と真剣な眼差し、わら
べ唄に手を打つも獅子に泣き出す幼児の姿、和
やかな空気に満ちた大人たちの呼吸感：一堂に
会して芸能を楽しめる事の喜びと、心を通い合
わせる事の大切さを改めて体感した後半期でした。

また、五年間に渡り実施してきた「アイヌの
歌や踊り」を内容としたJR東日本「四季島」
公演が十一月をもって終了しました。エカシや
フチたちの教えに導かれて、百十回にも及ぶ公
演を無事務めることができ、心から感謝してお
ります。アイヌ民族の伝統文化・精神文化を学
び続け、北海道に生きる歌舞団としての役割を
見いだして行きたいと思っています。

コロナ禍を通して生まれた困難にひるむ事な
く、今の私たちにできる表現の場を切り開きな
がら、新たなこぶし座の在り方を確立していく
決意です。

最後に、皆さまのご健康を祈念しつつ、一層
のお力添えをお願いして新年のごあいさつと致
します。

座員一同

子どもたちの笑顔に励まされて...

2021年度版

◆ 昨年度に引き続き、教職員の方々と力を合わせての学校公演を、何とか無事に終えることができました。公演後に届いた先生方の感想の一部を紹介します。

◆ 目の前での生演奏、舞踊に、食い入るように見て聴いていました。演目のどれも、最後まで集中して鑑賞していました。本当に楽しかったようです。DVDや動画とは違い、演技者の息づかい、間とり方など、直接感じながらの音楽体験は、子どもの情操教育に欠くことのできないものと改めて思いました。どの演目も子どもの関心を引き、工夫された選曲と思います。

コロナで大変ですが、民族歌舞の発展に、これからも力を発揮してくださるようお願いいたします。

◆ 楽しんで観ていました。傘踊りのキラキラしたものと、太鼓・おはやしなど、普段にはない演舞を観れてよかったです。しみいには自ら頭を差し出す子もいて、いいことがあるといいと願っていました。アイヌの言葉や音楽など、身近にあるようで実は実体験がなかったもので、とてもいい機会になりました。昨年かなわなかったのが、特に興味をもって観ることができました。マイクが全く目立たず、生声のようできてスピーカーで声を拾っていたのが、すごいと思いました。

◆ 1曲目から引き込まれて、みんな楽しそうに見入っていました。特にアイヌの曲では思わず手拍子したり、口ずさむ子もいました。北海道だけではなく、日本各地の民舞、アイヌの民族舞踊や楽器の演奏を楽しむことができ、良い経験させてあげられて、嬉しいです。

『支援募金のお礼と現状』

昨年度に引き続き、私どもの「支援募金」活動につきまして温かいご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

この間、こぶし座後援会々員の皆さんや支持者の方々の協力で、昨年よりも公演の減ったこの一年を何とか耐え抜き踏みとどまっています状況です。

また、公的支援金制度(月次支援金)などの活用にあたり、監事・金城公雄氏のご子息(克則さん)が調査研究をして尽力してくださり、具体的な成果に繋げることができました。

しかしながら、「変異株」による新たな脅威など、まだまだ先の見えない状況を、如何にして乗り越え自分たちの表現の場を生み出し続けられるのか...? 私たちは、更なる試行錯誤を今後も続けます!! どうか、なお一層のご支援をお願いいたします。

《...角田小学校6年生との感動の交流...》

10月22日(金)教育委員会主催の学校公演終了後、六年生の児童たちが片付け最中の体育館に突然やって来ました。修学旅行で「ウポポイ」に行っていて感動したことがきっかけで、自分たちの学習発表会(学芸会)でみんなで衣装を手作りし、ツルの踊りを発表したとのこと...。片付け終わった私たちの為に、改めて集まり自分たちの踊りを披露してくれました!!



* 角田小学校での公演は、栗山町教育委員会主催で実施された全町3校のひとつで、児童約60名の小規模校です。ツルの鳴き声を模した声と歌を、大きな声で歌い続けながら踊る子どもたちに、胸が熱くなりました。...「イイライケレ」

〈支援募金の状況について〉

12月27日現在

募金総額：3,832,367円(258名)

(内訳)

・後援会員 2,366,367円(209名)

・-- --ほか 1,466,000円(49名)

お知らせ

◆ JR東日本・豪華寝台列車「四季島」企画の終り...

二〇一七年の初運行から、5年間担当させていただいた『アイヌの歌や踊り』の演奏は、昨年11月の最終運行にて、終了となりました。コロナ禍による中止があったものの、回数では110回・三、一六五人の方にご覧いただきました。函館アイヌ協会のご援助に改めてお礼申し上げます。

今後の「四季島」はコースが変更されて、白老町に開設された「ウポポイ」見学が実現することとなっています。

この仕事を通じて学び得た多くのものを、今後の座活動に活かして参ります。

児童たちの感想文より

うれしがたです!!
ありがとうございます!!



...「子ども獅子」そろい踏み!!...